



資 料 編

塾卒業者数の変遷

〔ハイテク塾・長崎伝習所〕

昭和61年度	塾長	卒業生数	男性	女性
海洋開発塾	黒瀬 正行	23名	23名	一名
流通塾	宮原 泰治郎	24名	21名	3名
バイオ塾	鴨川 秀俊	31名	31名	一名
工業システム開発塾	高岡 則彦	22名	21名	1名
メカトロニクス塾	平田 泰郎	21名	20名	1名
海洋システム塾	利光 一紀	23名	23名	一名
都市デザイン塾	岡林 隆敏	26名	24名	2名
観光開発塾	岩永 明士	21名	20名	1名
建築塾	鉄川 進	20名	20名	一名
基礎講座塾	伝習所事務局	33名	26名	7名
総 数	10塾	244名	229名	15名

昭和62年度	塾長	卒業生数	男性	女性
海洋開発塾	高橋 和雄	17名	17名	一名
AI塾	谷口 良輔	15名	13名	2名
マイコン制御塾	小笹 裕	12名	12名	一名
建築塾	池田 賢一	18名	15名	3名
ニュービジネス研究塾	久保 一雄	27名	27名	一名
都市デザイン塾	浜永 孝雄	32名	27名	5名
イベント研究塾	田上 俊一	25名	25名	一名
来庵交流塾	ブライアン・パーク・カフニ	27名	12名	15名
'87紅塾	竹中 晴美	23名	一名	23名
長崎食文化塾	本田 時夫	21名	8名	13名
総 数	10塾	217名	156名	61名

昭和63年度	塾長	卒業生数	男性	女性
ニュービジネス研究塾	下山 重次	28名	24名	4名
長崎グランドデザイン塾	黒瀬 正行	17名	17名	一名
ニューメディア研究塾	木室 和孝	14名	13名	1名
長崎都市探検塾	吉岡 宣孝	23名	13名	10名
シティーリニューアル塾	大草 一俊	22名	17名	5名
来庵交流塾	林 敏幸	20名	9名	11名
'88紅塾	竹中 晴美	24名	一名	24名
長崎CM塾	中村 聡	14名	10名	4名
塾「花集」	北郷 雅子	15名	7名	8名
伝習所おまかせ塾	伝習所事務局	一名	一名	一名
総 数	10塾	177名	110名	67名
平成元年度	塾長	卒業生数	男性	女性

カード研究塾	山下 国広	22名	19名	3名
経営活性塾	前田 慎一郎	20名	15名	5名
造船塾	坂本 伸慈	17名	17名	一名
都市演出研究塾	大草 一俊	46名	32名	14名
長崎工芸塾	竹田 克人	19名	14名	5名
風力発電研究塾	平井 隆市	25名	20名	5名
“まちづくりと商店街”塾	佐藤 秀人	27名	15名	12名
総 数	7塾	176名	132名	44名

平成2年度	塾長	卒業生数	男性	女性
風力発電研究塾	平井 隆市	26名	22名	4名
長崎・サウンドデザイン塾	吉岡 宣孝	19名	10名	9名
都市夢塾	林 一馬	46名	30名	16名
長崎工芸塾	浜脇 昌盛	17名	11名	6名
長崎観光・物産塾	下山 重次	21名	18名	3名
港元気塾	平山 敏	28名	25名	3名
三重トピア塾	田川 茂	16名	16名	一名
総 数	7塾	173名	132名	41名

〔長崎伝習所〕

平成3年度	塾長	卒業生数	男性	女性
長崎・サウンドデザイン塾	吉岡 宣孝	23名	12名	11名
商店GUYSクリエイティブ・ネットワーク塾	山下 国広	20名	20名	一名
こどもたちの夢広場塾	猪山 勝利	32名	25名	7名
都市夢塾Ⅱ	渡部 雅弘	56名	43名	13名
来庵交流塾	岡部 道夫	25名	16名	9名
リサイクル文化研究塾	糸山 景大	45名	31名	14名
稲佐山元気塾	松原 一成	16名	14名	2名
総 数	7塾	217名	161名	56名

平成4年度	塾長	卒業生数	男性	女性
リサイクル文化研究塾	糸山 景大	37名	28名	9名
サウンドデザイン塾	吉岡 宣孝	18名	10名	8名
こどもたちの夢広場塾	猪山 勝利	46名	30名	16名
長崎都市夢塾	上野 皓士	46名	32名	14名
国際交流塾	牛嶋 洋一郎	82名	47名	35名
居留地未来塾	西 武宏	47名	39名	8名
港再生塾	浦川 貴隆	29名	26名	3名
総 数	7塾	305名	212名	93名
平成5年度	塾長	卒業生数	男性	女性

長崎都市夢塾	宮原 和明	53名	38名	15名
リサイクル文化研究塾	糸山 景大	38名	31名	7名
居留地未来塾	黒崎 邦博	41名	31名	10名
国際交流塾	牛嶋 洋一郎	100名	33名	67名
エコ・デザイン研究塾	渡部 雅弘	37名	27名	10名
遊びデザイン塾	藍葉 忠之	18名	12名	6名
文化・地域活性化塾	猪山 勝利	25名	13名	12名
ふれあい福祉21塾	牛津 信忠	35名	13名	22名
総 数	8塾	347名	198名	149名

平成6年度	塾長	卒業生数	男性	女性
国際交流塾	牛嶋 洋一郎	110名	43名	67名
おんな達の素朴な？塾	磯田 朋子	36名	一名	36名
NG発見塾	有馬 一郎	26名	23名	3名
よか・余暇・環境デザイン塾	前田 卓郎	19名	9名	10名
長崎表現塾	横田 嗣	18名	15名	3名
いのち・くらし・共育塾	山本 いま子	31名	14名	17名
都夢創野塾	藍葉 忠之	15名	9名	6名
文化ニューウェイブ塾	猪山 勝利	23名	10名	13名
エコ・デザイン塾	渡部 雅弘	27名	20名	7名
リサイクル文化研究塾	糸山 景大	33名	21名	12名
居留地未来塾	宮本 博文	41名	35名	6名
都市夢塾	野田 茂	32名	20名	12名
総 数	12塾	411名	219名	192名

平成7年度	塾長	卒業生数	男性	女性
都市夢塾	阿野 史子	40名	21名	19名
エコ・デザイン研究塾	渡部 雅弘	22名	17名	5名
国際交流塾	牛嶋 洋一郎	166名	59名	107名
出島ルネッサンス塾	松原 一成	17名	12名	5名
ソフトエネルギー研究塾	平井 隆市	27名	21名	6名
フィールド自遊塾	前田 卓郎	28名	16名	12名
NG発見塾	有馬 一郎	25名	20名	5名
上海塾	藍葉 忠之	28名	19名	9名
おんな達の素朴な？塾	二宮 節子	32名	一名	32名
平成の海援隊塾	柴田 恵司	30名	21名	9名
都夢創野塾	浜田 勇	34名	19名	15名
いのち・くらし・共育塾	山本 いま子	22名	10名	12名
リサイクル文化研究塾	糸山 景大	21名	14名	7名
総 数	13塾	492名	249名	243名

平成8年度	塾長	卒業生数	男性	女性
都市夢塾	山口 美智子	39名	25名	14名
リサイクル文化研究塾	糸山 景大	23名	14名	9名
国際交流塾	牛嶋 洋一郎	263名	98名	165名
エコ・デザイン研究塾	杉山 和一	22名	17名	5名
いのち・くらし・共育塾	山本 いま子	41名	17名	24名
フィールド自遊塾	前田 卓郎	25名	13名	12名
おんな達の素朴な？塾	森 郁子	40名	一名	40名
都夢創野塾	柴田 貞志	15名	7名	8名
出島ルネッサンス塾	松原 一成	24名	17名	7名
平成の海援隊塾	早田 猛	29名	17名	12名
21世紀長崎産品塾	徳勝 盛敏	19名	14名	5名
ドリーム&エンジョイライブラリー塾	川口 綾子	58名	13名	45名
総 数	12塾	598名	252名	346名

平成9年度	塾長	卒業生数	男性	女性
都市夢塾	中山 千賀子	35名	25名	10名
リサイクル文化研究塾	糸山 景大	32名	12名	20名
エコ・デザイン研究塾	杉山 和一	22名	15名	7名
国際交流塾	牛嶋 洋一郎	290名	112名	178名
出島ルネッサンス塾	松原 一成	22名	17名	5名
ドリーム&エンジョイライブラリー塾	川口 綾子	64名	44名	20名
NAGASAKIキラメキ☆シネマ塾	溝口 昌喜	18名	6名	12名
なんでんかんでん都市(まち)のデジタル探検隊塾	小久保 徳子	55名	36名	19名
総 数	8塾	538名	267名	271名

平成10年度	塾長	卒業生数	男性	女性
坂のまちなんでんかんでん研究塾	栗原 正紀	60名	41名	19名
平成の紅塾	竹中 晴美	16名	一名	16名
コーポラティブ住まい塾	塩田 真由美	21名	13名	8名
NAGASAKIキラメキ☆シネマ塾	溝口 昌喜	18名	12名	6名
ネットワークコミュニティ「都市のデジタル探検隊塾」	小久保 徳子	38名	24名	14名
夢いっぱい!としょかん塾	尾崎 寿美	34名	8名	26名
出島ルネッサンス塾	松原 一成	19名	13名	6名
国際交流塾	牛嶋 洋一郎	295名	127名	168名
総 数	8塾	501名	238名	263名

平成11年度	塾長	卒業生数	男性	女性
ごみとくらし研究塾	山本 幸代	46名	19名	27名
長崎くんち塾	安達 征治	87名	80名	7名
記憶の中の長崎案内塾	太田 恭子	29名	18名	11名
坂のまちなんでんかんでん研究塾	栗原 正紀	56名	37名	19名
NAGASAKIキラメキ☆シネマ塾	溝口 昌喜	17名	10名	7名
ネットワークコミュニティ「インターネット探検塾」	小久保 徳子	52名	30名	22名
夢いっぱい!としょかん塾	尾崎 寿美	48名	12名	36名
出島ルネッサンス塾	松原 一成	18名	11名	7名
総 数	8塾	353名	217名	136名

平成12年度		塾長	卒業生数	男性	女性
長崎ぶらぶら踊り塾	「行」	宗 保孝	78名	24名	54名
バグパイプ塾	「行」	廣高 信彦	26名	10名	16名
ヤンコ踊り塾	「行」	陳 東華	53名	7名	46名
歩いて楽しむ長崎まちづくり塾	「市」	矢川 正男	29名	20名	9名
エコシティ研究塾	「市」	宮原 和明	33名	24名	9名
ごみとくらし研究塾	「市」	山本 幸代	41名	12名	29名
記憶の中の長崎案内塾	「市」	藤城 薫	22名	14名	8名
総 数		7塾	282名	111名	171名

※平成12年度から従来の「市民提案型」の塾に、「行政提案型」の塾を加え、市民と行政が協働による、魅力あるまちづくり事業を展開している。
「市民提案型」を「市」、「行政提案型」を「行」と表記している。

平成13年度		塾長	卒業生数	男性	女性
観光長崎バリアフリー創造塾	「市」	後藤 恵之輔	26名	23名	3名
わが町の達人・名人さがし塾	「市」	入枝 一男	21名	14名	7名
エコシティ研究塾	「市」	宮原 和明	33名	26名	7名
歩いて楽しむ長崎まちづくり塾	「市」	矢川 正男	32名	23名	9名
出島事始め塾	「行」	宮川 雅一	19名	11名	8名
<small>にいまるまるいち</small> 2001女性塾	「行」	脇山 順子	18名	一名	18名
<small>げんき</small> 長崎源木発見塾	「行」	赤瀬 憲市	32名	25名	7名
くらしと環境研究塾	「行」	木村 一生	53名	22名	31名
長崎ぶらぶら踊り塾	「行」	宗 保孝	116名	13名	103名
ヤンコ踊り塾	「行」	陳 東華	80名	7名	73名
バグパイプ塾	「行」	廣高 信彦	20名	8名	12名
総 数		11塾	450名	172名	278名

平成14年度		塾長	卒業生数	男性	女性
2002長崎サウンドデザイン塾	「市」	吉岡 宣孝	14名	5名	9名
命とからだ探検隊塾	「市」	安日 泰子	61名	4名	57名
エコな街づくり研究塾	「市」	李 桓	35名	27名	8名
観光長崎バリアフリー創造塾	「市」	後藤 恵之輔	28名	25名	3名
わが町の達人・名人さがし塾	「市」	入枝 一男	25名	12名	13名
「長崎刺繍」再発見塾	「行」	嘉勢 路子	19名	一名	19名
長崎の染塾	「行」	砂崎 素子	28名	1名	27名
長崎やけんステンドグラス塾	「行」	橋口 都	17名	3名	14名
河川環境研究塾	「行」	富工 妙子	45名	27名	18名
ごみ夢中塾	「行」	矢野 博巳	32名	10名	22名
出島事始め塾	「行」	宮川 雅一	33名	17名	16名
にいまるまるいち 2001女性塾	「行」	脇山 順子	15名	一名	15名
長崎 ^{げんき} 源木発見塾	「行」	赤瀬 憲市	45名	25名	20名
長崎ぶらぶら踊り塾	「行」	宗 保孝	77名	8名	69名
ヤンコ踊り塾	「行」	陳 東華	84名	9名	75名
バグパイプ塾	「行」	廣高 信彦	28名	12名	16名
総 数		16塾	586名	185名	401名

平成15年度		塾長	卒業生数	男性	女性
生き生き園芸長崎塾	「市」	井石 八千代	44名	11名	33名
No!ドメスティック・バイオレンス塾	「市」	悦 晴美	32名	4名	28名
長崎まちづくり事業化研究塾	「市」	増倉 康久	25名	7名	18名
長崎ビジネス活性化塾	「市」	大崎 孝徳	34名	8名	26名
環境ネットワークながさき塾	「市」	宮原 和明	41名	24名	17名
長崎銀細工研究塾	「行」	酒井 美枝	20名	3名	17名
長崎陶芸復興塾	「行」	藤原 清一	33名	7名	26名
「長崎刺繍」再発見塾	「行」	嘉勢 路子	27名	一名	27名
長崎の染塾	「行」	平田 素子	33名	一名	33名
長崎やけんステンドグラス塾	「行」	小笹 悦二	16名	3名	13名
新・竹取物語塾	「行」	森 昇	26名	16名	10名
生ごみシェイパーズ塾(生ごみ減らし隊)	「行」	山口 八重子	22名	6名	16名
河川環境研究塾	「行」	富工 妙子	45名	28名	17名
出島事始め塾	「行」	宮川 雅一	31名	17名	14名
総 数		14塾	429名	134名	295名

平成16年度		塾長	卒業生数	男性	女性
長崎チェス塾	「市」	牛嶋 洋一郎	31名	24名	7名
「いつも青春」塾	「市」	田口 育子	14名	4名	10名
長崎の歴史再発見塾	「市」	小嶺 昭典	38名	23名	15名
No!ドメスティック・バイオレンス塾	「市」	悦 晴美	28名	5名	23名
長崎まちづくり事業化研究塾	「市」	矢川 正男	30名	24名	6名
環境ネットワークながさき塾	「市」	宮原 和明	45名	25名	20名
長崎の食 探検塾	「行」	宍戸 直嗣	19名	3名	16名
生きもの再生塾	「行」	引地 秀司	44名	26名	18名
新・竹取物語塾	「行」	森 昇	28名	20名	8名
生ごみシェイパーズ塾(生ごみ減らし隊)	「行」	山口 八重子	63名	19名	44名
総 数		10塾	340名	173名	167名

平成17年度		塾長	卒業生数	男性	女性
長崎の産業文化今昔物語塾	「市」	余語 保博	25名	23名	2名
長崎弁研究塾	「市」	田川 文夫	41名	19名	22名
メディエーション(対話術)研究塾	「市」	梅枝 眞一郎	22名	16名	6名
長崎チェス塾	「市」	牛嶋 洋一郎	25名	16名	9名
長崎の歴史再発見塾	「市」	小嶺 昭典	37名	24名	13名
オブジェ塾	「行」	川西 庄次	17名	16名	1名
長崎の食 探検塾	「行」	宍戸 直嗣	31名	3名	28名
生きもの再生塾	「行」	引地 秀司	36名	21名	15名
生ごみシェイパーズ塾(生ごみ減らし隊)	「行」	山口 八重子	73名	20名	53名
総 数		9塾	307名	158名	149名

平成18年度		塾長	卒業生数	男性	女性
ちよいわる団塊世代の面白発見塾	「市」	新田 照夫	17名	10名	7名
長崎)月の文化研究塾	「市」	山崎 讓	16名	4名	12名
舞台裏おじゃま塾	「市」	栢田 尚子	13名	4名	9名
長崎の産業文化今昔物語塾	「市」	余語 保博	23名	16名	7名
長崎弁研究塾	「市」	田川 文夫	42名	18名	24名
メディエーション研究塾(対話による問題解決術)	「市」	梅枝 眞一郎	33名	19名	14名
市民オブジェ塾	「行」	川西 庄次	17名	17名	一名
パートナーシップ塾	「行」	西岡 由香	13名	2名	11名
長崎出島楽坊塾	「行」	林 弘美	43名	6名	37名
総 数		9塾	217名	96名	121名

平成19年度		塾長	卒業生数	男性	女性
長崎うんすんかるた塾	「市」	大場 勝彦	31名	16名	15名
新長崎市の史跡探訪塾	「市」	田端 光男	54名	37名	17名
長崎ステーキホルダー会議塾	「市」	杉山 和一	41名	23名	18名
CM伝塾	「市」	吉光 正絵	25名	5名	20名
ながさき・ぶらんど創新(イノベーション)塾	「市」	谷口 竜一	42名	30名	12名
残しておきたい長崎ポートレート塾	「市」	矢川 正男	26名	23名	3名
長崎2月の文化研究塾	「市」	山崎 譲	12名	2名	10名
舞台裏おじゃま塾	「市」	柘田 尚子	12名	5名	7名
メディエーション研究塾～紛争解決から学ぶ快適コミュニケーション術～	「市」	梅枝 眞一郎	25名	12名	13名
市民オブジェ塾	「行」	川西 庄次	16名	10名	6名
パートナーシップ塾	「行」	西岡 由香	17名	3名	14名
長崎出島楽坊塾	「行」	西崎 寛弘	46名	7名	39名
総 数		12塾	347名	173名	174名

平成20年度		塾長	卒業生数	男性	女性
発見！実現！体験学習塾	「市」	吉田 伸吾	46名	27名	19名
おはなし音楽塾～親子で楽しむ音楽ものがたり～	「市」	池田 祐希	18名	2名	16名
「エコ名人を探せ！」塾	「市」	佐藤 恵	23名	6名	17名
長崎うんすんかるた塾	「市」	大場 勝彦	38名	17名	21名
新長崎市の史跡探訪塾	「市」	田端 光男	56名	37名	19名
長崎ESTステーキホルダー会議塾	「市」	杉山 和一	33名	23名	10名
ながさき・ぶらんど物語(イノベーション)塾	「市」	谷口 竜一	24名	16名	8名
CM伝塾	「市」	吉光 正絵	32名	4名	28名
総 数		8塾	270名	132名	138名

平成21年度		塾長	卒業生数	男性	女性
川さるく森・川・里・海塾	「市」	兵働 馨	36名	18名	18名
長崎洋館音楽舞踏塾	「市」	榎山 智子	24名	11名	13名
発見！ながさき遺産塾	「市」	川瀬 智子	18名	10名	8名
発見！実現！体験学習塾	「市」	吉田 伸吾	53名	32名	21名
「エコ名人を探せ！」塾	「市」	佐藤 恵	26名	11名	15名
「龍馬伝と幕末人物」塾	「行」	三丸 正紀	59名	41名	18名
在京長崎応援団塾～長崎を外から見る～	「行」	深野 浩平	30名	24名	6名
総 数		7塾	246名	147名	99名

卒業塾・卒業生数総計		230塾	8,223名	4,253名	3,970名
------------	--	------	--------	--------	--------

フォローアップ塾の概要

目的：市民のまちづくりに関する研究、実践活動の振興を図り、もって長崎伝習所事業の目的である市民と行政のネットワークの形成に寄与するため、まちづくり市民団体に対し、長崎伝習所フォローアップ補助金(以下「補助金」という。)を交付する

概要：長崎伝習所「塾」事業において過去に採択されたテーマについて研究、実践活動を行うことを規約等に定めた団体で、かつ次の各号の全部に該当する団体をいう。

- (1)その構成員が 10 名以上であるもの
- (2)年間を通して定期的な活動をす
る見込みのあるもの
- (3)その活動が公益的かつ人材育成
に寄与するもの

沿革：平成 6 年度に制度を創設(長崎伝習所まちづくり市民団体活動費補助金)、平成 20 年度に補助率などを改定し、名称も長崎伝習所フォローアップ補助金とした。

審査：運営委員会において、審査を行い、適切と認められたものに対して補助金を交付している。

名称	長崎伝習所フォローアップ補助金
補助金額	1 団体 1 回目 20 万円を限度
	1 団体 2 回目 10 万円を限度
	補助対象経費から当該事業に係る収入を差し引いたものの 4/5 以内
補助制限	1 団体 2 回限り

【交付実績】

年度	塾名
H8	居留地未来塾
H8	上海塾
H8	N G 倶楽部
H8	ソフトエネルギー研究センター
H9	N G 倶楽部
H9	ソフトエネルギー研究センター
H9	平成の海援隊塾
H9	都夢創野塾
H10	平成の海援隊塾
H10	リサイクル文化研究塾
H11	国際交流塾
H12	国際交流塾
H12	長崎くんち塾
H12	NAGASAKI キラメキ☆シネマ塾
H12	夢いっぱい！図書館塾
H12	出島ルネッサンス塾
H13	長崎くんち塾
H13	夢いっぱい！図書館塾
H13	出島ルネッサンス塾
H14	ごみとくらし研究塾
H14	くらしと環境研究塾
H14	歩いて楽しめまちづくり塾
H15	ごみとくらし研究塾
H15	くらしと環境研究塾
H15	観光長崎バリアフリー創造塾
H15	わが町の達人・名人探し塾
H15	長崎ぶらぶら踊り塾
H15	ヤンコ踊り塾
H15	バグパイプ塾
H16	観光長崎バリアフリー創造塾
H16	わが町の達人・名人探し塾
H16	ヤンコ踊り塾

H16	河川環境研究塾
H16	出島事始め塾
H17	河川環境研究塾
H17	出島事始め塾
H17	No!トメスティク・ハイレンス塾
H17	長崎まちづくり事業家研究塾
H17	環境ながさきネットワーク塾
H17	長崎節木塾
H18	No!トメスティク・ハイレンス塾
H18	長崎まちづくり事業家研究塾
H18	環境ながさきネットワーク塾
H18	長崎節木塾
H18	長崎チェス塾
H18	長崎の歴史再発見塾
H18	長崎の食 探検塾
H18	生きもの再生塾
H18	生ごみシェイパーズ塾
H19	長崎チェス塾
H19	長崎の食 探検塾
H19	生ごみシェイパーズ塾
H19	ちょいわる団塊世代の面白 発見塾
H19	長崎弁研究塾
H20	残しておきたい長崎ポ ート レート塾
H20	舞台裏おじゃま塾
H20	メディエーション研究塾
H21	残しておきたい長崎ポ ート レート塾
H21	長崎うんすんかるた塾
H21	長崎 EST ステークホルダー-会議塾
H21	長崎イノベーション塾
H21	CM伝塾
H21	おはなし音楽塾



フォローアップ補助金審査会(4/28)

九州創発塾の概要

九州創発塾とは、九州に根ざす7新聞社において、自立した地域づくり推進のため、平成5年に「九州平成義塾」、平成12年から「九州発見塾」、平成19年から「九州創発塾～7つのシナジーが切り拓く未来へ」を開催しています。

県境を越えた地域連携・人材交流をとおりて地域が抱える課題を共有し、ともに行動する機会を提供。塾生間の自主的ネットワーク構築など、その意義を内外に広く顕示することができました。

「創発」とは、「複数の部分が融合することで、単純な総和にとどまらない新しい高度な秩序やシステムが生まれること」を意味し、個性豊かな九州の7県が連携することで、及びもつかなかったシナジーが生み出され、豊かで活力に溢れた未来が切り開かれるような願いが込められています。

第3回の佐賀大会は、「ソフトパワーで繋ぐ新しい九州～地域の技術・ブランドを武器に」をテーマに、九州各地から約270名が塾生として集い、九州の圏域力向上や将来ビジョンなどを模索しました。

長崎伝習所からも、広くネットワーク構築と塾生のスキルアップを目的に10名が参加しました。

佐賀大会概要

テーマ：ソフトパワーで繋ぐ新しい九州
～地域の技術・ブランドを武器に～
会期：平成21年8月7日(金)～8日(土)
会場：マリトピア(佐賀市)
主催：九州新聞社7社
共催：九州経済連合会、
中小企業基盤整備機構九州支部

【日程】

8月7日(金)

10:00	開会式(20分)
10:20	大会要旨宣言(20分)
10:40	基調講演(95分) 「地域遺伝子で時代をひらく」 涌井雅之氏(造園家・ランドスケープアーキテクト)
13:10	パネルディスカッション(95分) 【パネリスト】 涌井雅之氏 川島宏一氏(佐賀県最高情報統括監) 庄司昌彦氏(国際大学 GLOCOM 主任研究員) 藤 雅仁氏(フォーラム鹿島広報担当) 石川慶蔵氏(佐賀ダントール商会取締役副社長) 【コーディネーター】 茂木健一郎氏(脳科学者)
15:00	中小企業基盤整備機構(60分)
16:10	旭化成提供講座(45分)
17:10	塾生交流会(90分～120分)

8月8日(土)

8:40	分科会A「ネオ有田焼～伝統に吹き込む新しい命」 (講師)百田憲由氏(百田陶園社長) (見学先)有田焼卸団地 分科会B「近代化産業遺産と九州」 (講師)長野暹氏(佐賀大学名誉教授) (見学先)三重津海軍所跡、佐野常民記念館、佐賀城本丸歴史館 分科会C「スローフード・地域で繋ぐ新食思想」 (講師)武富勝彦氏(有葦農取締役社長)
------	---

	(見学先) 有限会社葦農(よしのう) 分科会D「共有・共感・協働～ネットがはぐくむ地域力」 (講師) 庄司昌彦氏
13:30	分科会報告(40分)
14:20	大会総括(30分)
14:50	閉会式(10分)、解散



大会の様子

参加者報告

九州創発塾 2009 佐賀大会に参加して

発見！ながさき遺産塾

川瀬 智子

長崎伝習所の塾長になり3ヶ月が過ぎた8月、それまで存在も知らずにいた「九州創発塾」に参加させて頂くことになり、文字通り「期待」と「不安」を抱えての出発となりました。長崎からバスで同行した他団体の方々は、たいへん親しみやすく意欲的で、終始和やかな雰囲気の中での、佐賀大会となりました。

2日間のイベントの中で、私にとって一番印象的だったのは、初日の涌井雅之氏による基調講演、「地域遺伝子で時代をひらく」だったと思います。涌井雅之さんをテレビで拝見していたこともあり、とても興味深いお話の連続でした。特に、地域遺伝子のひとつは景観だという視点は、私自身の街並みのへの興

味と重なり、景観について一步踏み込んで考えるきっかけになったと思います。

景観や街並みと人との繋がりは、ただ景色が美しいとか、汚いよりはきれいな方がいいというのではなく、住まいに関して「居は人をあrawす」と言われるように、周囲の環境がその人の一部となることなのだと思改めて感じました。人が生きる「場」としての「まち」を、健康的(人に優しい)な素材で作り、安全で瑞々しく計画することは、そこに生きる人を豊かにすることに繋がって行きます。また、これまでの町の長い歴史を知ることは、町の遺伝子について知り、町を深く理解して、本来あるべき姿を描くための要素となります。

「発見！ながさき遺産塾」での活動を通して、長い歴史の中で、熟した町の魅力や底力を実感し、人が心豊かに生きるための「まち」の要素を見つけて行きたいと改めて思いました。また、今大会のコーディネーターを務められた茂木健一郎さんのお話の中で、地域の活動では、「組織の多様性が大切だ」とのお話は私も同感でしたので、塾活動は、できる範囲で道草の多い楽しい塾にしたいものだと考えています。

九州創発塾を通して印象に残ったこと

発見！ながさき遺産塾

中田 佳代子

九州創発塾の2日間を通して、九州各地で活躍しているさまざまな方のお話を聞いて、とても刺激になりました。この塾を通して私は2つのことがとても印象に残りました。

1つ目は、涌井先生が「住んでいる人は自分の町の宝に気付きにくいから、他の都市と比較をすることが大切だ」と言われていたことです。他の都市と比較することで、より自

分の町の固有性を認識して、それを生かすことで独自のまちづくりを行っていけるのだと感じました。

2つ目は、「世界遺産にするにあたっては実際に「モノ」が残っていることが重要だ」という言葉です。分科会「近代化産業遺産と九州」で見学をしていて、建物の遺構や磁器類などのモノを見ることでより当時の人の思いを感じて、当時の様子を連想させることができました。

長崎は、江戸時代に唯一外国との交流を持っていた町で幕末～近代にかけての建物が残り、重層性を持っています。この2つの視点を土台に、長崎の固有性とその価値を市民皆で共有して、まちづくりに関わっていきたいと思います。

「九州創発塾佐賀大会」に参加して

龍馬伝と幕末人物塾

三丸 正紀

何かせんば・・・！

九州7県が連携した新たな地域づくりを考える「九州創発塾 2009」が8月7、8日佐賀市のマリトピアで開幕された。私のファンである脳科学者の茂木健一郎氏を総合コーディネーターに迎え、基調講演やパネルディスカッション、分科会などを通し、九州の一体的な発展や将来像を探りました。「ソフトパワーで繋ぐ新しい九州～地域の技術・ブランドを武器に」をテーマにICT時代の産業のあり方や各県の歴史、地域資源を掘り起こし、そのネットワーク化などが議論された。

佐賀新聞のコラム“有明抄”の中で「地域の素晴らしい文化や自然、産業技術などローカル・コンテンツを「磨けば光を放つ原石ばかり」という茂木さん。九州という地域が有

するそれら原石をさらに輝く宝石にする知恵と手立てを現代の“知の巨人”がきっと教え、導いてくれるに違いない」と書かれていた。

素晴らしい会場に270人各県から蒼々たる人間が集い、佐賀マスコミの創発塾への思いや熱意も伝わってくる。このように、地域を挙げての取り組みが重要だと思った。我々も何かせんば…という気になる。

目から鱗

来賓挨拶で九州経済産業局長の「GDPの数値より昨日より今日のほうが幸せだと一人一人が感じる事が大切。生活の豊かさを表す指数が出来れば九州が世界一だといえるようになる。」と言われたが、目から鱗の感じでスマートな考え方を聴く事が出来た

同じく佐賀県知事メッセージで「昨年の洞爺湖サミットで有田焼の万年筆を各国首脳に贈られた例をとって新技術の融合で一つの県では無理でも九州全体で力を合わせれば出来ることがある」とネットワーク作りの大切さを実感させる話であった。

九州のベクトル合わせの機会

「九州・山口近代化産業遺産群」登録として長崎のグラバー住宅、高島の北溪井抗、端島炭鉱などが連なっており、自力による近代化や技術導入などの観点からだが、恥ずかしながらもはじめて知った。ネットワーク作りの大切さ必要性を感じた。九州のベクトル合わせの機会の一つであろう。

佐賀の取り組みに支援を

佐賀の近代化世界遺産を目指す取り組みは証拠品が不足していても、何とかしようと懸命である。その熱意には敬服する。産業遺産登録として三重津海軍所遺構を見学したが、町全体がどう感じ取っているのだろうか、見学者が少なく、少し寂しく感じた。学校とり

わけ子供たちへ伝える。全ての学校が見学して回るカリキュラムを作り、子供から大人を動かしていくうねりを作ることが大切。行政の強い指導も必要ではないか、最初、水のみ場に連れて行くことから始まる。郷土の大切さ、素晴らしさをどう伝えるか。もっと花火のように打ち上げ関心と呼ぶ手立てが必要ではないか。それが九州のネットワーク作りに繋がって行くような気がする。長崎からの支援は何かないか素直にそう思った。

街歩きポータルナビはできだろうか

それからすれば、長崎は 100 メートル行けば何か旧跡があり、街全体が博物館である。どんな説明表示をするだろうか。車にナビゲーターがついているが、説明と行き先表示をする携帯電話くらいのコンパクトなポータブル・ナビが出来ないだろうか、九州の知恵を出し合って・・・そんな製品開拓がされればとフーッと思った。

集まった人の素晴らしさ

集まった(参加)人、講師陣を始め素晴らしい人たちばかりであった。有田町役場の街づくり最前線で活躍する人、地域振興でリードしている人、女性県議、NPO 法人立ち上げをした人などなど会話の中でも、自分のことより、皆が良くなることを誰もが考えて来ていた様な気がする。何が出て来るのか、何か分からないけど、皆知恵を出し合えば何か出来る気がした。皆さんの懸命な思い、姿に自分は何が出来るとののだろうかと自問自答しているところである。確かに、こんな思いは荷物を背負ったのかもしれない。でも何を担いだのか中身は分かりません。担いだまま右往左往している自分があるようです。

来年は長崎で開催されるということだが、長崎は宝庫、ネタは沢山ある。ネットワーク

が少しでも広がるように協力したいと思っている。

最後に、素晴らしい人たちに出会い、素晴らしい事を聴き、素晴らしい九州を皆で創ろうと、そんなことを教えてくれた塾に参加させていただいたことに感謝したい。本当に有難うございました。

九州創発塾佐賀大会に参加して得たもの

龍馬伝と幕末人物塾

村崎 春樹

九州創発塾佐賀大会に、参加して多くのことを学びました。この体験と学んだことを実際の活動に生かしたいと思います。

まず、今回の大会に参加して学んだこと、得たもの、感じたことについて述べたいとおもいます。

九州創発塾佐賀大会は、九州各県から多くの塾生(新聞報道では 270 名)が参加しており、その年齢層も若い人から、それなりのお歳の方まで(長崎伝習所も同じ)で、又職業も各分野にわたっているが、皆さんが若々しく元気に、疑問なことには徹底的に追求する姿勢があることが感じられた。

大会の内容は、主催者、来賓、総合コーディネーターらの挨拶、基調講演、パネルディスカッション、特別講座などがあったが、来賓あいさつの経済産業省九州経済産業局長橋高氏の官僚らしかぬ、「GDP などの数値が豊かさの指標なのか、豊かさの指標は別にあるのでは、九州は東京と比較するのではなく、九州らしさの伝統産業、文化などで COOL JAPAN を世界に発信すべき」との発言に、発想の転換の必要性を感じ、総合コーディネーターの脳科学者茂木健一郎氏「九州のパワーを生かすのは、ネットワークであり、ネッ

トワークとは人脈である」には、人と人のつながり「人脈」の必要性を再認識した。

パネルディスカッションでは、SNS などのインターネットは、ツールとして使いこなすことが大切、又人と人が直接話すことの大切さについて討議された。

分科会(実地見学会)は「ネオ有田焼～伝統に吹き込む新しい命」に参加したが、確かに新しい取り組みと新製品(有田焼の万年筆、万華鏡、新しい食器、美味しくのむためのカップなど)であったが、それなりに売れているとの事でしたが、私たちの身近に、販売されているのを見たことがない、有田に行かないと買えないのでは、有田の新しい主力商品には成り得ないのではとの感を強くした。

大会の締め括りとして分科会結果報告があったが、そのなかで印象に残ったのは「近代化産業遺産と九州」の報告のなかで、幕末佐賀藩の三田海軍所跡を近代化産業遺産にしようとの運動をされているとの報告があったが、その跡は現在発掘調査中で、まだ遺跡があった明確なものは出てないとの事であった。関係者の熱意は感じられたが、近代化遺産登録は極めて困難なものを感じた。

塾生交流会においては、各県の塾生と交流ができて大変有意義であった。

以上のような、大会の体験と学習結果をもとに、長崎伝習所「龍馬伝と幕末人物伝塾」の活動において、自己満足、ひとりよがりにならず、長崎市民のみならず、他市、他県の人たちにも共感を得られ、わかってもらえて、何度でも長崎に足を運んでもらえる、そんな魅力ある内容の情報発信が出来るようにして行きたい。

参加して得たもの、今後にかすもの

龍馬伝と幕末人物塾

吉野 誠次

今年の九州創発塾は「ソフトパワーで繋ぐ新しい九州 ～地域の技術・ブランドを武器に」をテーマに、九州7県から約 270 人の塾生が集い、佐賀市で開催された。塾生の一人として参加させて頂きましたので、簡単にご報告致します。

まず、一言で結論を言えば「新しい多くの知識が得られ、且つ多くの仲間を得たことで、非常に有意義な 2 日間であった」

1. 総合コーディネーター：茂木 健一郎氏の開会挨拶より

*九州には優れた資源が多いが、生かされていない。→ネットワーク化が必要。

*出来る人の共通点→他人の為に頑張る人
→巡って自分のパワーになる。

2. 基調講演「地域遺産子で時代をひらく」：涌井 雅之氏より

*「農業革命」「産業革命」に続き現在は第 3 の革命「環境革命」迎えている。

*産業革命は、人類と自然を切り離したがこれからはエコロジーとエコノミーを融合させる必要がある。

*自然を押さえ込むのではなく、「いなす」知恵も必要である。

3. 分科会 D「共有・共感・協働 ～ネットがはぐくむ地域力」

*地域 SNS(ソーシャル ネットワーク サービス) → 友達の輪を広げみんなで情報等を共有する為の手段(道具)

*日本初の地域 SNS は、2004 年に熊本県八代市の市職員が作成した「ごろっとやっちょろ」で、最大の地域 SNS は、佐賀新聞社の「ひびのコミュニティ」で、約 1 万人が登録

している。

*日本全体の地域 SNS は、約 400 で活動を続けているのが約 100 で優れているのが約 60。後の 300 は立ち枯れ状態にある。

運用を維持するのもなかなか難しいようだ。

*九州は人の繋がり(結束・橋わたし)に優れ、先進的なプロジェクトが次々に生れている。

4. 大会総括：茂木 健一郎氏の挨拶より

*九州にある素晴らしい”クオリア(質感)”に気づき、育てることが大切だ

*クオリアは、その魅力を簡単には言葉にできず、実際に行ってみなければ分からない。九州には無名だけど素晴らしいモノ(資産)がたくさんある。ネットワークを通じてほかの地域を鏡にすれば見つけられる。

5. 今後の長崎伝習所活動に活かすもの

*「龍馬伝と幕末人物塾」の佐賀藩担当として、今回知り得た人物との交流。

*「ひびのコミュニティ」に登録済み。多分佐賀藩の歴史に詳しい人も多いと思われるので、相互交流を深めて伝習塾のアウトプットの質を高めたい。

*最後に、今回の創発塾に派遣させて頂いた、長崎伝習所の皆様に感謝申し上げます。

創発塾に参加して

発見！実現！体験楽習塾
東 基生

私が創発塾の分科会では庄司昌彦氏による「共有・共感・協働～ネットがはぐくむ地域力」というテーマで地域 SNS についての話を聞きました。参加者の年齢層は広く大学生から仕事を定年になったかたなど幅広かったです。地域 SNS の活用方法や展望についてのお話がありました。

このなかで感じたのは SNS などに対する

理解は世代間でかなりわかれるということでした。前日に行われた全体のパネルディスカッションでも SNS などのネットワーク上のやりとりも否定的な意見は多いようでした。そのような流れもあってか、分科会のなか質疑の時間でも SNS の有効的な活用法などの前向きな議論より、存在そのものに否定的な後ろ向きな質問が多かったです。

分科会に参加されるということで SNS の理解がある人や活用を積極的行いたい人が集まると勝手に思っていたところもあり大変驚きました。分科会のあとで庄司先生と直接お話しをする機会がありそのなかで、SNS がコミュニケーションのツールであるということ言われていました。またその部分の理解がされていなかったといわれていました。

この創発塾に参加してあらためて人から理解してもらおうということの難しさと重要性を感じました。今回は地域 SNS についての有効活用について考えていこうというものだったが、コミュニケーションは“対面がよく、ネット上のコミュニケーションはいけな”と考えられているかたにはなかなか受け入れられず、本来伝えようとしていることや、議論のテーマから外れたものになっていました。

私は長崎伝習所の「発見！実現！体験！楽習塾」に参加しています。塾の対象者や活動内容はほかの塾とも比べて参加されていないかたには非常にわかりにくいものになっているだろうと思います。また活動の内容も野外活動などで、一見したらただ単に遊んでいるためとも思われる活動ですが、同年代とのかかわりや日常的な様々な経験の少ない彼らにとってとても大切な活動になっています。

今後「発見！体験！楽習塾」はもちろんほ

かの塾がどのような活動を行っているかということを知ってもらうことで今後の長崎伝習所の活動がより広がっていくと思います。今回創発塾に参加でき非常によい経験をする事ができました。来年長崎で開催されるということでぜひ参加したいと思いました。



長崎の紹介で大活躍の塾生

共感～協同 九州創発塾に参加して

発見！実現！体験楽習塾
深堀 達也

今回、初めて参加させて頂き、貴重な経験をすることができてとても嬉しく思います。

最初はどんな人たちが集まるのかと出発前は期待より不安が多く、また、長崎代表の一員としての自覚もないまま参加していいものかと迷うこともありましたが、実際に会場に到着して様々な世代や立場の人たちと出逢い、交流していくうちに自然と不安が消えて行きました。

それぞれパネリストの方々も含め、全く職業も年齢も異なる、同じ九州に住む人たちが「より自分たちの地域を活性化させたい」集まって議論を深めていく場実際に自分の身を置けたというのはとても大きかったと思います。

立場が違えば主張することも違い、それが違うからまた対立する人たちもいるけど、そ

の中でも共感する部分もあるし、みんな自分たちの住んでいる地域、大きく言えば九州全体を活性化させたいという気持ちは同じだということが熱い議論が交わされる会場から伝わってきました。

もちろんそれぞれ立場上、対立もあるので話がうまくまとまるのは難しいとは思いますが、ここで会ったのも何かの縁。ぜひ形だけの名刺交換ではなく共に地域の活性化に力を注げる仲間として交流・活躍できたら、それだけで九州創発塾 2009 佐賀大会に来た意味は十分にあると思います。

とはいえ、個人的にはまだまだ積極的に交流する余地はあると思うので、来年の長崎大会も参加できたらと思います。

ネットワークと地域

発見！実現！体験楽習塾
藪本ゆかり

今回、九州創発塾に参加させていただき、ネットワークと地域のつながりの大切さをとっても感じました。私は「発見！実現！体験楽習塾」で活動しており、この活動にきている全員が人のネットワークを求めて参加しているのだと思いました。地域でなかなか日々のストレスや悩みなどを解決できない中で、この体験楽習塾でそのような部分を、人と人とのつながりや関係のなかで解決しているのではないかと今回の創発塾の色々な先生方の話を聞きながら思いました。

また、体験楽習塾では個性的な人がたくさんいます。「他人のために頑張る」という行為がそれぞれの潜在能力を一番引き出すと茂木先生は言いましたが、他人のためでなくても、そこに人がいて、自分にしっかりと向き合ってくれる人がいると感じるだけで潜在能力や

個性を引き出すことが可能なのだと感じました。

私たちは今からどうすれば良い人のネットワークができたり、その中でその個性を發揮し、内輪で終わらせず地域へ発信していくかが課題だと思いました。また、人のネットワークと地域をどうつなげるかも大切なことだと思いました。

「ソフトパワーで繋ぐ新しい九州 ～地域の技術・ブランドを武器に」

長崎伝習所事務局

西村 直美

世界での評価は GDP や GNP によって裕福さを評価されてきたが、今後は数字に出る値ではなく、人間の幸せ度で判断する時代が到来する。

九州には資源がたくさんあるが、そのパワーが使われていないし、活かしきれていない。その資源を活かすには九州内のネットワークが必要である。

人とのネットワークを繋げるための一つの手法として SNS が注目を集めている。人とのつながりは、Face to Face も大事ですが、遠隔地にいる方とコミュニケーションをとるにはネットを使った技術も必要となる。今後、日本は中央政府を頼れず地方分権に変化していく。そうすると自立が重要になってくる。自立するためにはコミュニティの再生が必要であり、そのためには地域で中間組織の活動を活性化させることが重要となってくる。

九州には沢山のクオリアがあるが、気付いていない事が多い。地域のクオリアを高めることにより、価値が上がってくる。

長崎市だけでなく長崎県さらには九州で、沢

山のクオリアを見つけ、お互いに繋がり魅力ある九州に発展することを期待します。

分科会 C「スローフード・地域で繋ぐ新食思想」に参加して

長崎伝習所事務局

原田 宏子

「スローフード」って、そもそも何？「食」への興味はあっても、農業にあまり関わったことのない私は、普段使っているこの言葉の意味が実感できるかもという期待をもって、この分科会に参加した。

講師は武富勝彦氏。佐賀県で古代米生産農場を営んでいる方で、今回はその農園も視察した。スローフードとは、イタリアに本部を置く NPO 法人「スローフード協会」という団体の名称であり、その団体が行っている地域の食文化を守り発展させていこうという哲学と運動のことを言うそうだ。日本では、スローフード・ジャパンという事務局が仙台にでき、日本の地域に根ざした活動を展開中である。その活動のユニークなところは「味覚＝食遺産」と位置づけそれを守るという NPO であることだ。味の多様性こそが地域の文化であるから、それを伝え広めなければならぬ。そして、質のよい食材を提供する小生産者を守る。また、子どもたちを含め、消費者に味の教育を進める。そういう活動を行っている。

私たち消費者にできることは、その意味を理解し、共感したら、その農産物等を購入し、経済をまわすことだと思う。生産者も消費者も目的を共有して自分にできることを実行しなければならぬと実感した。そのためには、何気に使っている言葉も良く意味を知ることが大切だと感じる機会となった。



参加者集合



美女に囲まれ茂木さんもお満悦

参加者名簿

所 属	氏 名	分科会
発見！ながさき遺産塾	川瀬 智子	B
発見！ながさき遺産塾	中田佳代子	B
龍馬伝と幕末人物塾	三丸 正紀	D
龍馬伝と幕末人物塾	村崎 春樹	D
龍馬伝と幕末人物塾	吉野 誠次	D
発見！実現！体験楽習塾	東 基生	B
発見！実現！体験楽習塾	深堀 達也	A
発見！実現！体験楽習塾	藪本ゆかり	D
長崎伝習所事務局	原田 宏子	C
長崎伝習所事務局	西村 直美	D

長 崎 伝 習 所 要 綱

(目的)

第1条 この要綱は、長崎伝習所（以下「伝習所」という。）を設け、市民と行政の有機的連携を強化することにより、人材の育成と政策を生み出す活動を行い、もって長崎の再生と創造に寄与することを目的とする。

(事業)

第2条 伝習所の事業は、おおむね次のとおりとする。

- (1) 長崎伝習所「塾」に関すること。
- (2) その他伝習所の目的を達成するために必要と認められる事業

(組織)

第3条 伝習所は、総長及び前条に規定する伝習所の事業を実施する者（以下「実施者」という。）で組織する。

- 2 総長は、長崎市長をもって充てる。
- 3 実施者は、総長が指名する者をもって充てる。

(総長)

第4条 総長は、伝習所の事業を総理し、伝習所を代表する。

- 2 総長に事故があるときは、あらかじめ、その指名する実施者がその職務を代理する。

(運営委員会)

第5条 伝習所に助言機関として運営委員会を置き、その組織、会議等については、別に定める。

- 2 運営委員は、総長が指名する者をもって充てる。
- 3 運営委員会は、伝習所の事業について助言することができる。

(資金)

第6条 伝習所の資金は、長崎市からの補助金、寄付金及びその他のものをもって充てる。

- 2 資金は、安全かつ確実な方法により管理するとともに、適正な執行に務めなければならない。

(事業年度)

第7条 伝習所の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(決算)

第8条 伝習所は、毎事業年度の決算を翌年度の5月31日までに完結しな

ければならない。

(事務局)

第9条 伝習所の事務局を長崎市企画財政部市民協働推進室内に置く。

(委任)

第10条 この要綱に定めるものを除くほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、平成3年5月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成3年8月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

長崎伝習所フォローアップ補助金交付要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、予算の定めるところにより、市民のまちづくりに関する研究、実践活動の振興を図り、もって長崎伝習所事業の目的である市民と行政のネットワークの形成に寄与するため、まちづくり市民団体に対し、長崎伝習所フォローアップ補助金（以下「補助金」という。）を交付することについて必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この要綱において「まちづくり市民団体」（以下「団体」という。）とは、長崎伝習所「塾」事業において過去に採択されたテーマについて研究、実践活動を行うことを規約等に定めた団体で、かつ次の各号の全部に該当する団体をいう。

- (1) その構成員が10名以上であるもの
- (2) 年間を通して定期的な活動をする見込みのあるもの
- (3) その活動が公益的かつ人材育成に寄与するもの

(補助金の額等)

第3条 補助金の額及び補助の対象となる経費は、別表のとおりとする。

(補助金の交付申請)

第4条 団体は、補助金の交付申請を行うものとする。

2 前項の規定により補助金の交付申請を行う団体は、次に掲げる書類を添えて総長に提出しなければならない。

- (1) 補助金交付申請書（第1号様式）
- (2) 事業計画書（第2号様式）
- (3) 事業収支予算書（第3号様式）
- (4) 団体の規約
- (5) 団体の構成員名簿
- (6) その他総長が必要と認める書類

(交付の決定)

第5条 総長は、補助金の交付申請があったとき、当該申請に係る書類等の審査により、適正であると認めた時は、補助金交付決定通知書（様式第4号）を交付するものとする。

(補助金の交付)

第6条 この補助金は、概算払により交付するものとする。

(実績報告)

第7条 実績報告は、補助対象事業が完了した日から起算して1月以内又はその翌年度の4月5日までのいずれか早い日までに提出しなければならない。

2 実績報告は、次に掲げる書類を添えて総長に提出しなければならない。

- (1) 事業実績報告書（第5号様式）

- (2) 事業完了報告書（第 6 号様式）
 - (3) 事業収支決算書（第 7 号様式）
 - (4) その他総長が必要と認めるもの
- （長崎市補助金等交付規則の準用）

第 8 条 この要綱に定めるものを除くほか、補助金の交付等にかかる事項については、長崎市補助金等交付規則（昭和 63 年長崎市規則第 21 号）の規定を準用する。この場合において、同規則中「市長」とあるのは「総長」と読み替えるものとする。

（委任）

第 9 条 この要綱の施行に関し必要な事項は、総長が定める。

附 則

この要綱は、平成 6 年 5 月 23 日から施行し、平成 6 年度の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、平成 20 年 6 月 10 日から施行し、平成 20 年度の補助金から適用する。

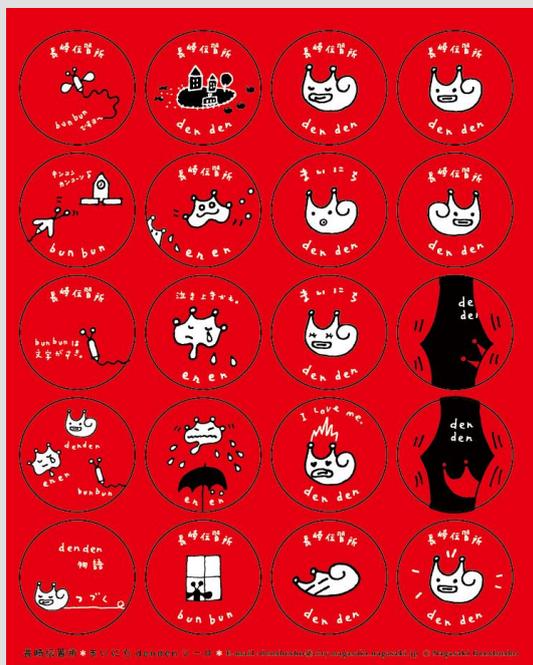
別表（第 3 条関係）

種別	長崎伝習所フォローアップ補助金
補助金額	1 団体 1 回目 20 万円を限度 1 団体 2 回目 10 万円を限度
	補助対象経費から当該事業に係る収入を差し引いたものの 4/5 以内
補助制限	1 団体 2 回限り
対象経費	報償費（外部の講師・専門家等への謝礼、調査・研究等にかかる報償費） 旅 費（外部講師の移動等にかかる運賃・宿泊費等、視察研修費） 需用費（教材費、文具等の消耗品費、パンフレット・チラシ等の印刷製本費） 役務費（通信運搬費、手数料、保険料等） 使用料・賃借料（会場使用料、車両・器具等の賃借料） その他の経費（その他総長が認めるもの）
対象外経費	団体の構成員による会合の飲食費 団体の構成員に対する人件費、謝礼等 団体の構成員に対する交通費、ガソリン代、駐車場代

備考 補助金額において、1,000 円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てるものとする。

■ PRグッズ ■

● まいちに denden シール



▲ 円形シール：直径 2.5cm(1 シート 20 枚)

● denden ストラップ

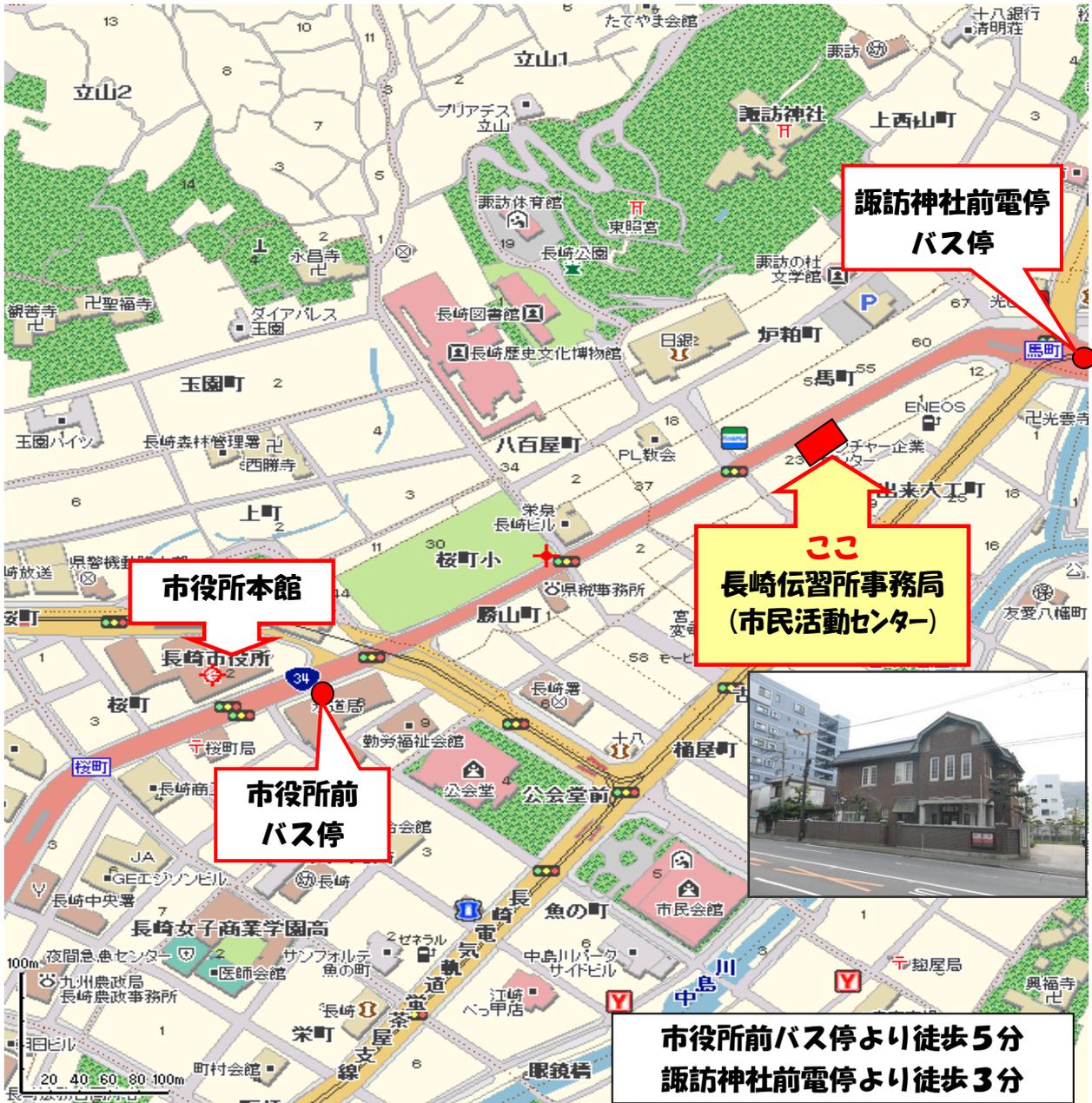


▲ 円形本体：直径 2.7cm(磁器)

● denden バックバナーパネル



▲ バナー：タテ 230×ヨコ 230 cm



「長崎伝習所」平成 21 年度研究成果報告書

発行：平成 22 年 3 月

編集：〒850-0022

長崎市馬町 21-1 長崎市市民活動センター内

長崎伝習所事務局（長崎市企画財政部市民協働推進室内）

TEL 095-829-1125 FAX 095-829-2925

E-mail denshusho@city.nagasaki.nagasaki.jp

ホームページ <http://www1.city.nagasaki.nagasaki.jp/denshusho/>